

# 全議員行政視察報告

## (友好姉妹都市長野県松川町親善訪問)

- 日 時 平成28年8月2日(火)～8月3日(水)
- 研修先 長野県 松川町 【松川町のまちづくりの取り組みについて】  
【「議会と語る会」の実施方法及び内容】  
【議会だよりモニター制度の取り組みと成果】
- 岐阜県 瑞浪市 東濃地科学センター

松川町とは、旧相良町との間で、松川町の町制施行30周年(昭和61年)を記念して姉妹都市提携が結ばれ、牧之原市になってからも引き続き友好姉妹都市提携が結ばれている。産業祭で互いの特産物を販売するなどの経済交流が行われているほか、スポーツ少年団や自治会同士など各種団体とも盛んに交流が行われている。

議会としても、相互の交流を深めるため今回実施されたものであり、昨年は松川町議会が当市を訪問している。

### ○ 松川町のまちづくりの取り組みについて

平成28年2月に制定された「第5次総合計画(平成28年度～平成31年度)」の内容について説明を受けた。まちづくりの将来像を『いっしょに育てよう 一人ひとりが輝く 笑顔あふれるまち まつかわ』とし、それを実現するために3つの柱「あなたの想いを生かします」「人のつながりを大切にします」「住みよいまちをつくります」を掲げており、将来の目標人口を平成31年10月 12,950人としている。(平成28年1月現在 13,192人)

基本方針として下記の6つが挙げられている。

- ①地域の絆と力を育み安全・安心なまちをつくる
- ②安心して働ける環境をつくり地域の良さを活かした産業を育てる
- ③自然豊かなふるさとでいきいきと暮らせる
- ④人と人とが顔を合わせ広くつながる
- ⑤地域から学び次の世代へつなげる
- ⑥みんなで支え合い子どもたちを育てていく

### ○ 「議会と語る会」の実施方法及び内容について

松川町議会基本条例に明記されており、今年度は町内5地区で実施された。以前は「議会報告会」として、議会側からの報告が主であったが、報告時間が長く市民から不評であったため、議会側からの報告は簡潔(5分程度)に、残りの時間を意見交換の時間とした。

議会からの報告時は、資料を配布するのではなく議会だよりを参考にして報告を行っている。また意見交換では町政に関するテーマを2つ設け、各30分ずつ議員と市民とで意見交換を行う。

参加者については、当市と同様に年齢が高くなるほど参加者数が多く、若者の出席者が少ない状況であった。

## ○ 議会だよりモニター制度の取り組みと成果

平成27年3月より制度開始。モニターは子育て世代から女性が3名、中壮年世代から男性1名 女性2名、高齢者世代から男性3名の合計9名で構成されており、年齢・性別共に幅広い層から意見聴取を行っている。なお、モニターは公募制としている。モニターからの意見は必ず反映させることで、モニター自身のモチベーションを保つとともに、モニター経由で読者を増やすなどの工夫がされていた。

松川町議会の「議会だより編集委員会」には副議長、議会運営委員長、常任委員長、前議会だより編集委員長が委員として加わっており、議会の情報発信において議会だよりを重視していた。また、議会だより編集の基本方針を下記のとおり掲げており、議会だよりの方向性については、議会内で合意形成がされていた。

- ① 議会の視点で議会のうごきを伝えます
- ② 議員の主張を伝えます
- ③ 情報を取捨選択して伝えます
- ④ 見たい・読みたいと感じていただく工夫をします
- ⑤ 読者との接点を持ち距離を縮めます
- ⑥ 発言と表現の技術を向上させます

## ○ 東濃地科学センター

地層科学研究として、地下水や地層を調査することで高レベル放射性廃棄物の地層処分の可能性を研究している施設である。施設が立地している土地は市有地（岐阜県瑞浪市）であり、平成14年より20年間の借地予定となっている。地層科学研究終了後は全て埋め戻して返すこととなっており、研究施設を最終処分場としない協定が近隣市と結ばれている。

現地は地下500mまで掘削されており、現在の日本では人間が到達できる最も深い深度であるとのこと。地下500mの坑道は、気温こそ27度前後と地上とあまり変わらないものの、湿度が90%以上であったため非常に蒸し暑く、現場作業員の労働環境は厳しいものであった。



研修の様子



松川町との集合写真